

第2章 調査結果のまとめ

(1) 朝食の摂取状況と食べない理由

朝食の摂取状況を見ると、「ほぼ毎日食べる」はどのライフステージにおいても最も多い回答となっており、青年期、成年期で7割、中年期は8割、そのほかのライフステージでは9割となっています。また、その中でも「ほぼ毎日食べる」の割合が低い青年期、成年期においては「ほとんど食べない」が1割と他のライフステージより高くなっています（図表1-1）。

また、「ほとんど食べない」と答えた人の割合を男女別に見ると、成年期の男性が27.8%であり、他に比べて突出しています。そのほかでは青年期の男女、中年期の男性で1割となっています（図表1-2）。

全国調査の児童及び保護者の朝食摂取状況を見ると、「必ず毎日食べる」は児童本人調査、保護者調査ともに8割となっており、吹田市の小中学生及びその保護者のほうが朝食の摂取率が高いことがうかがえます（図表1-3）。

「国民健康・栄養調査」の結果を見ると、男女ともに20歳代、30歳代において朝食を食べない人が多く、本調査と国民健康・栄養調査では「欠食」の定義は異なるものの、青年期、中年期における朝食の欠食が多いのは全国と同様の傾向にあります（図表1-4）。

図表1-1 朝食の摂取状況

(%)

対象	n (人)	ほぼ毎日 食べる	週に4~5 日は食べる	週に2~3 日は食べる	ほとんど 食べない	不明・ 無回答
幼児期	535	96.6	1.5	1.1	0.4	0.4
小学生	333	99.2	0.4	0.0	0.0	0.4
中学生	148	95.9	0.0	0.7	2.7	0.7
青年期	295	71.2	8.1	7.8	11.9	1.0
成年期	134	77.6	4.5	4.5	13.4	0.0
中年期	301	85.7	2.0	4.0	7.6	0.7
高年期	652	93.4	0.9	1.4	3.5	0.8
幼児期保護者	535	91.8	1.9	2.2	3.6	0.6
小学生保護者	333	90.7	2.1	2.7	3.0	1.5
中学生保護者	148	95.9	0.0	0.7	2.7	0.7

図表1-2 男女別の朝食摂取状況

(%)

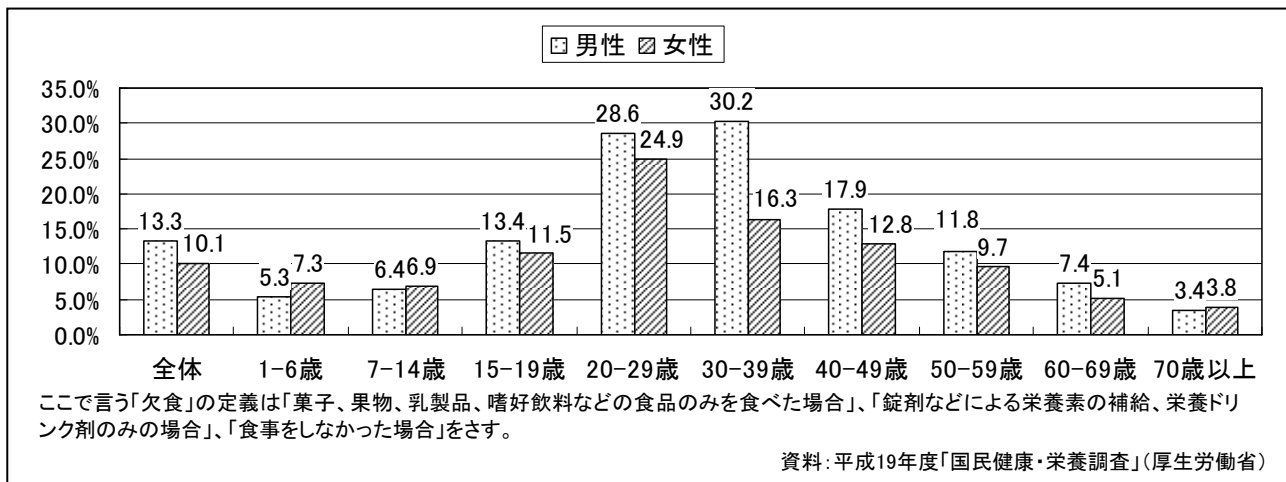
対象	n (人)	ほぼ毎日 食べる	週に4~5 日は食べる	週に2~3 日は食べる	ほとんど 食べない	不明・ 無回答	
青年期	男性	117	70.1	8.5	8.5	12.8	0.0
	女性	177	72.3	7.9	7.3	11.3	1.1
成年期	男性	54	61.1	5.6	5.6	27.8	0.0
	女性	80	88.8	3.8	3.8	3.8	0.0
中年期	男性	121	80.2	3.3	5.0	11.6	0.0
	女性	179	89.4	1.1	3.4	5.0	1.1
高年期	男性	249	91.2	0.8	2.4	4.8	0.8
	女性	393	95.2	1.0	0.8	2.8	0.3

図表 1-3 児童及び保護者の朝食摂取状況（全国）（％）

対 象		必ず毎日 食べる	1週間に2～ 3日食べな いことがある	1週間に4～ 5日食べな いことがある	ほとんど 食べない
児童本人調査 (n=12,136)	総計	83.0	11.1	1.6	4.3
	小学生	85.4	9.8	1.4	3.5
	中学生	80.5	12.5	1.8	5.2
保護者調査 (n=11,846)	総計	84.2	9.1	1.4	5.2
	小学生	83.7	9.1	1.6	5.5
	中学生	84.8	9.0	1.2	4.9

資料：平成 17 年度「児童生徒の食生活等実態調査」(独立行政法人日本スポーツ振興センター)

図表 1-4 年齢別男女別朝食の欠食状況（全国）



朝食を「週に2～3日は食べる」、「ほとんど食べない」と答えた人に食べない理由を尋ねたところ、幼児期、小学生は「用意はするが食べようとしない」が最も多くなっており、中学生では「時間がない」、「食べる習慣がない」が最も多くなります（図表 1-5、図表 1-6）。

青年期、成・中年期においては「時間がない」や「食欲がわからない」の回答が多く、また「起きる時間が遅く朝昼兼用になる」は青年期、高年期で多くなっています。そのほか、青年期、成年期においては「朝食の準備が面倒」が2割以上、中年期、高年期では「朝食を食べる習慣がない」が1.5割以上と他のライフステージに比べて多く、また高年期では「食費節約のため」が1割以上と多くなっています（図表 1-7）。

図表 1-5 朝食を食べない理由（％）

対 象	n (人)	時間がない	用意はするが食べようとしない	家族に食べる習慣がない	その他	不明・無回答
幼児期	8	50.0	75.0	0.0	12.5	0.0

図表 1-6 朝食を食べない理由

(%)

対 象	n (人)	時間が ない	用意はす るが食べ ようとしない	食べる習 慣がない	朝食が用 意されて いない	やせる ため	その他	不明・ 無回答
小学生	4	50.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中学生	5	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0	40.0	20.0

図表 1-7 朝食を食べない理由

(%)

対 象	n (人)	時間 がない	食欲 がわか かない	起きる 時間が遅く 朝屋 兼用にな る	やせる ため	朝食 の準備が 面倒	朝食 が用意さ れていな い	朝食を 食べる 習慣が ない	食費 節約 のため	その他	不明・ 無回 答
青年期	58	60.3	32.8	50.0	1.7	20.7	6.9	6.9	1.7	1.7	1.7
成年期	24	58.3	58.3	25.0	0.0	25.0	12.5	8.3	4.2	0.0	0.0
中年期	35	40.0	54.3	8.6	0.0	8.6	0.0	17.1	2.9	5.7	0.0
高年期	32	9.4	28.1	34.4	9.4	9.4	3.1	15.6	12.5	6.3	6.3
幼児期保護者	31	51.6	45.2	6.5	9.7	12.9	0.0	12.9	6.5	6.5	0.0
小学生保護者	19	42.1	63.2	0.0	10.5	5.3	5.3	10.5	0.0	5.3	0.0
中学生保護者	5	40.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0

(2) 昼食・夕食の摂取状況

昼食・夕食の摂取状況を見ると、どのライフステージも「ほぼ毎日食べる」が最も多くなっています（図表 2-1）。

夕食の時間は、幼年期と高年期は「午後 7 時以前」、学齢期から成・中年期までは「午後 7 時台」が一番多くなっていますが、青年期と成年期については「午後 8 時台」も 2 割以上と他のライフステージに比べて多くなっています。また、青年期から中年期では「決まっていない」の割合についても他のライフステージに比べて多くなっています（図表 2-2）。

図表 2-1 昼食・夕食の摂取状況

(%)

対 象	n (人)	昼食					夕食				
		ほぼ 毎日 食べる	週に4 ~5日 は食 べる	週に2 ~3日 は食 べる	ほとん ど食べ ない	不明・ 無回 答	ほぼ 毎日 食べる	週に4 ~5日 は食 べる	週に2 ~3日 は食 べる	ほとん ど食べ ない	不明・ 無回 答
幼児期	535	99.3	0.2	0.2	0.0	0.4	97.0	0.2	0.0	0.0	2.8
小学生	333	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	99.1	0.3	0.0	0.0	0.6
中学生	148	98.0	1.4	0.0	0.0	0.7	95.3	0.0	0.0	0.0	4.7
青年期	295	95.3	3.1	0.7	0.3	0.7	89.5	2.4	1.7	0.0	6.4
成年期	134	94.0	5.2	0.7	0.0	0.0	92.5	3.0	0.0	0.0	4.5
中年期	301	94.4	3.7	0.7	1.0	0.3	94.4	3.7	0.7	1.0	0.3
高年期	652	94.9	2.5	0.6	1.2	0.8	90.3	0.3	0.3	0.6	8.4
幼児期保護者	535	95.3	2.4	0.9	0.7	0.6	93.6	0.9	0.4	0.2	4.9
小学生保護者	333	95.8	1.8	1.2	1.2	0.0	93.1	0.0	1.2	0.9	4.8
中学生保護者	148	95.3	2.7	1.4	0.7	0.0	93.2	2.7	0.0	0.0	4.1

図表 2-2 夕食の時間

(%)

対 象	n (人)	午後7 時以前	午後7 時台	午後8 時台	午後9 時台	午後10 時台	午後11 時以降	食べな い	決まっ ていな い	不明・ 無回答
幼児期	535	58.3	37.0	3.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
小学生	333	36.6	54.7	6.6	1.2	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0
中学生	148	20.9	56.8	14.2	2.0	1.4	0.0	0.0	3.4	1.4
青年期	295	10.5	29.8	27.8	9.2	6.4	2.4	0.0	13.6	0.3
成年期	134	14.2	26.9	24.6	11.9	6.0	5.2	0.0	11.2	0.0
中年期	301	26.6	35.9	14.3	8.6	3.0	1.3	0.7	9.6	0.0
高年期	652	57.4	30.7	7.1	1.1	0.6	0.5	0.5	1.1	1.2

(3) 起床・就寝時間

起床時間を見ると、青年期以下では「午前7時台」が最も多く、成年期以上では「午前6時台」が最も多くなっています（図表3-1）。

また、就寝時間を見ると、幼児期では「午後8時台」から「午後9時台」、小学生では「午後9時台」から「午後10時台」、中学生、高年期では「午後10時台」から「午後11時台」、青年期から中年期では「午後11時台」から「午前1時以降」に回答が集中しています（図表3-2）。

図表 3-1 起床時間

(%)

対 象	n (人)	午前6時 以前	午前6時 台	午前7時 台	午前8時 台	午前9時 以降	不明・ 無回答
幼児期	535	2.4	34.6	54.8	7.7	0.2	0.4
小学生	333	3.3	46.2	49.8	0.0	0.3	0.3
中学生	148	4.7	34.5	58.8	0.7	0.7	0.7
青年期	295	9.2	31.9	34.9	12.2	11.2	0.7
成年期	134	15.7	38.1	32.1	8.2	6.0	0.0
中年期	301	26.2	42.9	23.9	5.0	1.7	0.3
高年期	652	25.0	39.0	24.5	8.3	2.3	0.9

図表 3-2 就寝時間

(%)

対 象	n (人)	午後8時 以前	午後8時 台	午後9時 台	午後10 時台	午後11 時台	午後12 時(午前 0時)台	午前1時 以降	不明・ 無回答
幼児期	535	2.6	26.4	51.0	14.8	2.8	0.4	0.0	2.1
小学生	333	1.8	9.0	52.9	27.9	6.0	1.5	0.0	0.9
中学生	148	0.0	0.0	4.1	25.7	48.0	16.2	2.0	4.1
青年期	295	0.0	0.0	0.3	3.1	18.3	40.7	34.9	2.7
成年期	134	0.0	0.0	1.5	12.7	25.4	34.3	22.4	3.7
中年期	301	1.0	0.3	5.3	13.0	29.2	31.9	14.0	5.3
高年期	652	1.2	3.5	12.9	25.5	35.4	16.0	4.9	0.6

(4) ダイエット

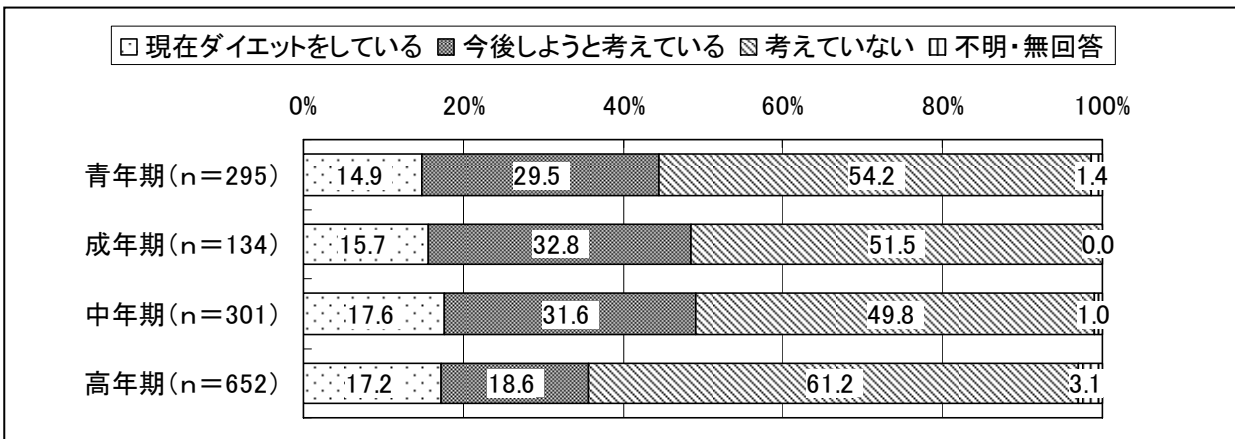
ダイエットについて尋ねたところ、どのライフステージも「考えていない」が最も多くなっていますが、「今後しようと考えている」は青年期から中年期で約3割となっています（図表4-1）。

男女別に見ると、「現在ダイエットをしている」は青年期女性、成年期男性、高年期男性が2割となっています（図表4-2）。

また、BMI別に見ると、BMI判定が「やせ」「適正」の人はどのライフステージにおいても「考えていない」が最も多く、「肥満」の人は「今後しようと考えている」が最も多くなっています。しかし、青年期の「やせ」の人で「現在ダイエットをしている」は11.5%と他のライフステージで「やせ」の人よりも割合が多くなっています（図表4-3）。

さらに「やせ」の人のうちの女性だけを比較してみても、青年期で「現在ダイエットをしている」と答えた人が15.4%、「今後しようと考えている」が17.9%と、他のライフステージに比べて多くなっています（図表4-4）。

図表4-1 ダイエットの意向



図表4-2 男女別のダイエットの意向

(%)

対象		n (人)	現在ダイエットをしている	今後しようと考えている	考えていない	不明・無回答
青年期	男性	117	6.8	18.8	73.5	0.9
	女性	177	20.3	36.7	41.2	1.7
成年期	男性	54	20.4	31.5	48.1	0.0
	女性	80	12.5	33.8	53.8	0.0
中年期	男性	121	18.2	28.1	52.9	0.8
	女性	179	17.3	34.1	47.5	1.1
高年期	男性	249	20.9	14.1	63.5	1.6
	女性	393	14.5	21.4	60.3	3.8

図表 4-3 BMI 判定別のダイエットの意向

対 象		n (人)	現在ダイ エットをし ている	今後しよ うと考 えて いる	考 えて い ない	不明・ 無回答
青年期	やせ(18.5未満)	61	11.5	11.5	72.1	4.9
	適正(18.5~25未満)	198	15.2	30.8	53.5	0.5
	肥満(25以上)	24	12.5	70.8	16.7	0.0
成年期	やせ(18.5未満)	29	6.9	3.4	89.7	0.0
	適正(18.5~25未満)	89	16.9	37.1	46.1	0.0
	肥満(25以上)	13	30.8	69.2	0.0	0.0
中年期	やせ(18.5未満)	24	4.2	8.3	87.5	0.0
	適正(18.5~25未満)	217	17.1	28.1	53.5	1.4
	肥満(25以上)	54	25.9	55.6	18.5	0.0
高年期	やせ(18.5未満)	54	1.9	1.9	92.6	3.7
	適正(18.5~25未満)	456	17.1	14.3	66.0	2.6
	肥満(25以上)	118	25.4	44.9	26.3	3.4

図表 4-4 やせ(BMI18.5未満)の女性のダイエットの意向 (%)

対 象	n (人)	現在ダイ エットをし ている	今後しよ うと考 えて いる	考 えて い ない	不明・ 無回答
青年期	39	15.4	17.9	59.0	7.7
成年期	25	8.0	4.0	88.0	0.0
中年期	20	5.0	10.0	85.0	0.0
高年期	39	0.0	2.6	92.3	5.1

(5) 歯について

歯科検(健)診の受診状況を見ると、幼児期については市の歯科健診や幼稚園、保育所など、何らかの形で歯科検(健)診を受けている人が9割となっています(図表5-1)。小学生、中学生では学校で歯科健診を実施しているので、学校以外での歯科検(健)診の受診について尋ねたところ、「受けていない」が小学生で20.1%、中学生で37.2%という回答でした(図表5-2)。

青年期から高年期については「年1回以上受けている」が最も多くなっていますが、高年期では5割と回答に差がみられます(図表5-3)。

図表 5-1 歯科検(健)診の受診状況 (%)

対 象	n (人)	市の歯科 健診を受け たことがあ る	幼稚園や保 育所で健診 を受けたこと がある	歯科で個別 検診を受け たことがあ る	受けたこと がない	不明・無回答
幼児期	535	26.9	35.1	30.8	2.4	4.7

図表 5-2 学校以外での歯科検(健)診の受診状況 (%)

対 象	n (人)	受けている	学校健診で 勧められたと きに受けてい る	受けていな い	不明・無回答
小学生	333	56.8	22.8	20.1	0.3
中学生	148	32.4	30.4	37.2	0.0

図表 5-3 歯科検(健)診の受診状況

(%)

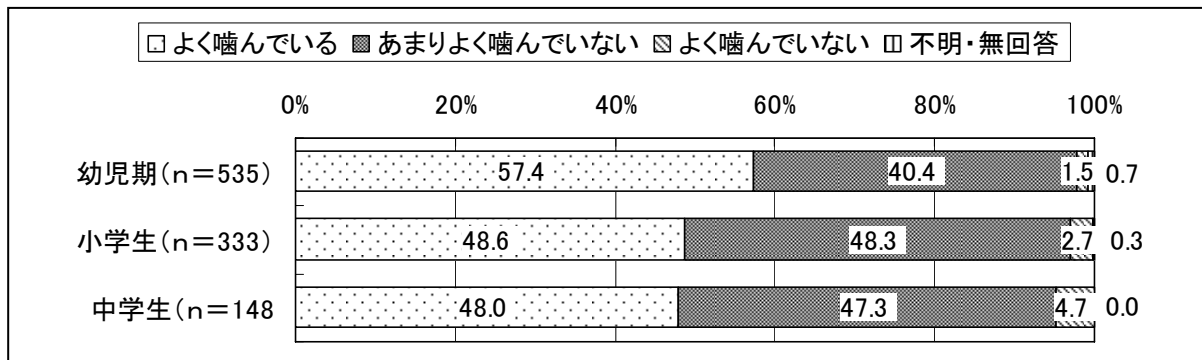
対 象	n (人)	年1回以上受けている	2~3年に一度くらいは受けている	ここ3年以上受けていない	受けたことがない	不明・無回答
青年期	295	34.2	24.1	21.7	19.7	0.3
成年期	134	32.1	29.1	20.1	17.9	0.7
中年期	301	42.2	21.9	17.3	17.9	0.7
高年期	652	55.5	21.3	11.7	10.0	1.5

噛むことについて、食事の際に「よく噛んでいる」子どもの割合は幼児期では6割弱、学齢期では5割弱と約半数にとどまっています(図表5-4)。

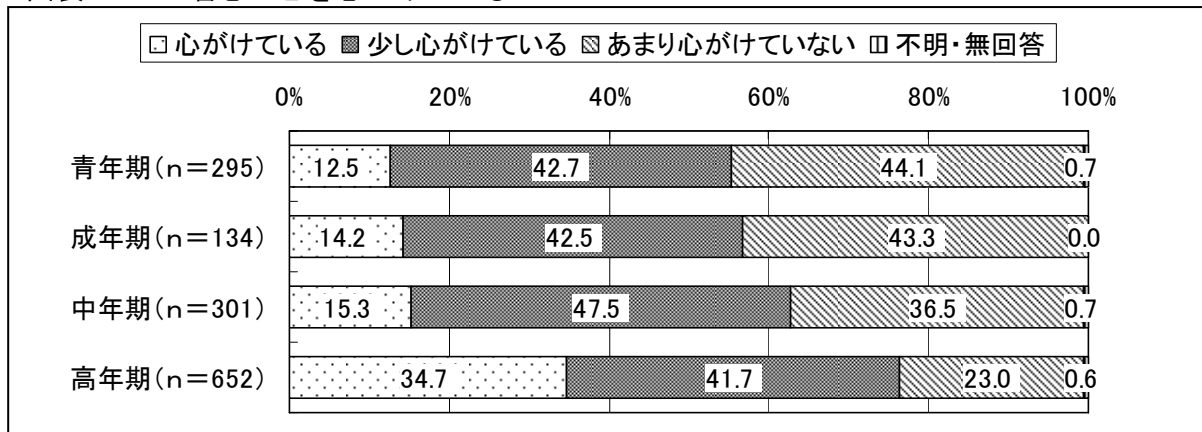
青年期から高年期で「食事の際によく噛むことを心がけているか」を尋ねたところ、「心がけている」はライフステージが上がるにつれて割合が高くなる傾向にあります(図表5-5)。

また、8020運動の認知度を見ると、「言葉も意味も知っていた」は青年期のみ4割弱と低く、他の年代では6割を超えています(図表5-6)。

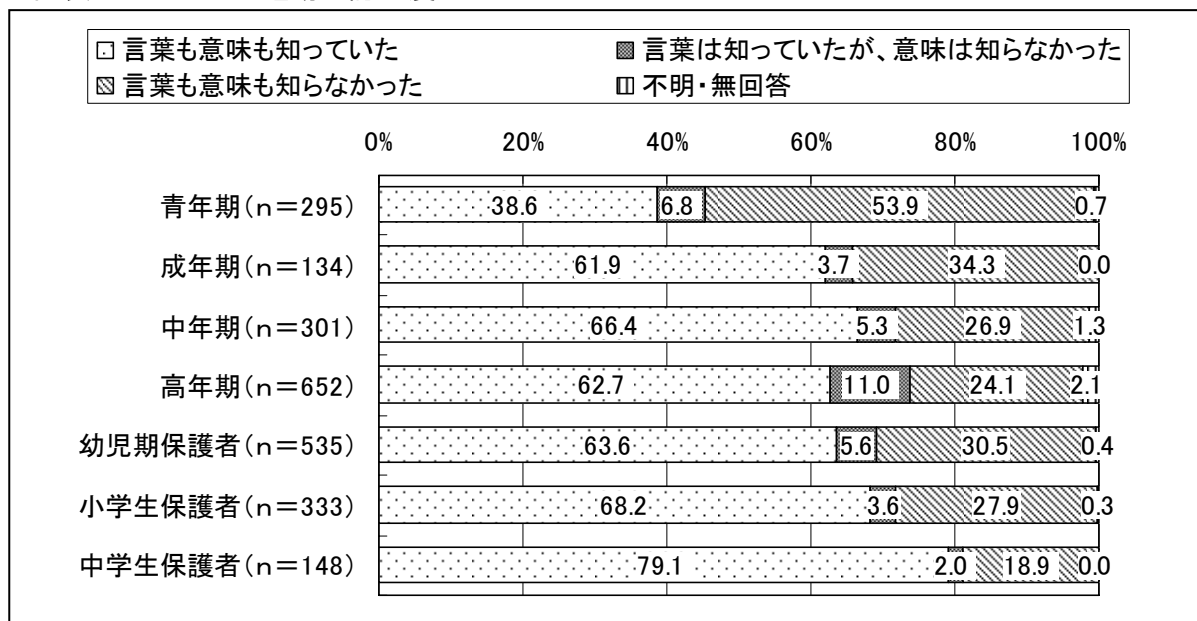
図表 5-4 食事の際によく噛んでいるか



図表 5-5 噛むことを心がけているか



図表 5-6 8020 運動の認知度



(6) 食生活で重視すること

食生活で重視することを尋ねたところ、青年期を除き全てのライフステージで「栄養バランスのとれた食事」が最も多くなっており、青年期では「食べ残しをしない、食品を捨てない」が最も多くなっています。また、青年期、成年期、保護者では「家族や友人と食卓を囲む機会」、中年期、高年期、保護者では「食品の安全性」、「できるだけ手作りの食事」がそれぞれ多くなっています(図表 6-1)。

図表 6-1 食生活で重視すること

(%)

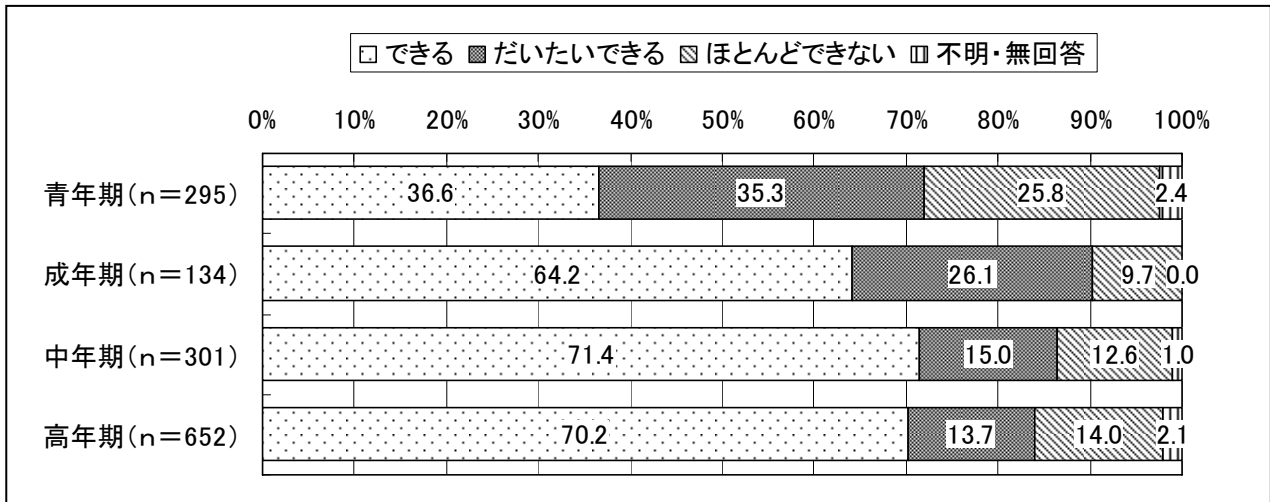
対象	n (人)	家族や友人と食卓を囲む機会	食事の正しいマナーや作法	地域性や季節感のある食事にする	地場産物の購入・使用	食べ残しをしない、食品を捨てない	食品の安全性	できるだけ手作りの食事	栄養バランスのとれた食事	規則正しい食生活のリズム	多様な食品の利用	その他	特にない	不明・無回答
青年期	295	45.4	26.1	9.8	2.7	53.6	37.6	30.8	52.5	30.8	9.5	1.4	11.5	1.4
成年期	134	57.5	26.1	30.6	14.9	63.4	53.0	47.8	76.9	37.3	19.4	1.5	3.7	0.0
中年期	301	41.2	15.9	24.3	9.3	53.2	60.5	54.5	75.4	47.8	23.6	2.0	2.3	1.0
高年期	652	33.3	13.8	26.8	14.4	55.1	65.3	70.6	72.5	61.2	28.8	2.8	2.9	1.4
幼児期保護者	535	70.7	58.3	29.5	10.8	60.4	66.7	65.4	84.3	65.0	19.4	0.6	0.7	0.2
小学生保護者	333	70.6	59.5	31.2	8.1	61.0	61.6	64.9	84.4	60.7	21.0	1.8	0.9	0.0
中学生保護者	148	65.5	46.6	29.7	7.4	66.2	65.5	63.5	84.5	60.8	20.3	0.0	1.4	0.0

(7) 食事の準備

食事の準備ができるかを尋ねたところ、「できる」は青年期で 36.6%と最も低く、中年期、高年期では7割と差がみられます。また、「ほとんどできない」は青年期の 25.8%が最も多く、その他でも1割程度の回答がみられます(図表7-1)。

男女別に見ると、「できる」はどのライフステージにおいても男性が低く、特に青年期男性が 25.6%と低くなっています。また、青年期女性は「できる」が 44.1%で最も多いものの、他のライフステージの女性に比べて低くなっています(図表7-2)。

図表7-1 食事の準備ができるか



図表7-2 食事の準備ができるか(男女別)

(%)

対象		n (人)	できる	だいたいできる	ほとんどできない	不明・無回答
青年期	男性	117	25.6	39.3	32.5	2.6
	女性	177	44.1	32.8	20.9	2.3
成年期	男性	54	42.6	37.0	20.4	0.0
	女性	80	78.8	18.8	2.5	0.0
中年期	男性	121	37.2	32.2	29.8	0.8
	女性	179	94.4	3.4	1.1	1.1
高年期	男性	249	37.3	28.1	31.3	3.2
	女性	393	91.3	4.8	2.5	1.3

(8) 食事のあいさつ

「いただきます」や「ごちそうさま」などの食事のあいさつについて、どのライフステージも「いつもする」が最も多くなっていますが、ライフステージが上がるにつれて、回答が減る傾向にあります(図表8-1)。

「児童生徒の食生活等実態調査」の結果を見ると、「いつもあいさつをする」は小学生で 47.6%、中学生で 34.8%となっており、本調査では小学生が 76.6%、中学生は 64.2%と吹田市のほうがかなり多くなっています(図表8-2)。

また、内閣府の「食育に関する意識調査」の結果を見ると、「必ずしている」は 40-49 歳が 59.6%で最も低く、そのほかの年代は 6~7 割となっており、本調査よりも割合が高く、特に高年期において差がみられます(図表8-3)。

図表 8-1 食事のときのあいさつ

(%)

対 象	n (人)	いつもする	時々する	あまりしない	まったくしない	不明・ 無回答
幼児期	535	83.2	14.6	1.9	0.2	0.2
小学生	333	76.6	18.0	4.2	0.9	0.3
中学生	148	64.2	23.0	8.1	4.1	0.7
青年期	295	56.9	24.4	13.2	4.7	0.7
成年期	134	61.9	23.9	8.2	6.0	0.0
中年期	301	51.8	23.6	15.9	7.6	1.0
高年期	652	47.4	23.8	16.6	10.7	1.5

図表 8-2 食事のときのあいさつ (全国)

(%)

対 象	いつもあいさ つをする	ときどきしな いことがある	いつもしない
総計(n=12,031)	40.4	1.0	40.3
小学校	47.6	1.4	33.8
中学校	34.8	0.6	45.6

資料：平成 17 年度「児童生徒の食生活等実態調査」(独立行政法人日本スポーツ振興センター)

図表 8-3 食事のときのあいさつ (全国)

(%)

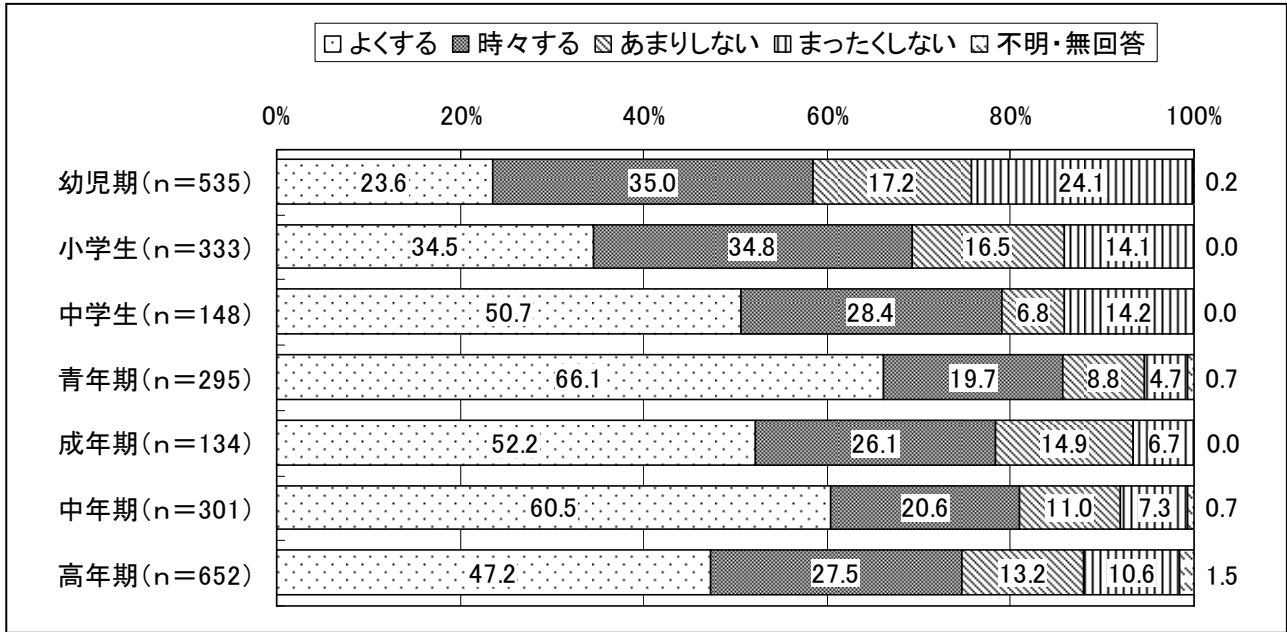
対 象	n (人)	必ずしてい る	しばしばして いる	時々してい る	あまりしてい ない	全くしていな い
全体	1,831	59.3	12.6	11.1	11.3	5.6
20 歳代	174	64.9	24.1	4.6	4.6	1.7
30 歳代	308	62.7	25.3	5.5	5.8	0.6
40 歳代	297	59.6	23.6	10.8	4.4	1.7
50 歳代	372	69.6	15.6	7.3	5.6	1.9
60 歳代	376	76.6	10.9	4.5	6.6	1.3
70 歳以上	304	69.7	13.5	8.6	4.6	3.6

資料：平成 19 年「食育に関する意識調査」内閣府

(9) ながら食について

テレビを見たり、ゲームやメール等をしったりしながら食べる「ながら食」について尋ねたところ、「よくする」は幼児期から青年期にかけてライフステージが上がるごとに割合が高くなり、それ以降は下がる傾向にあります（図表9-1）。

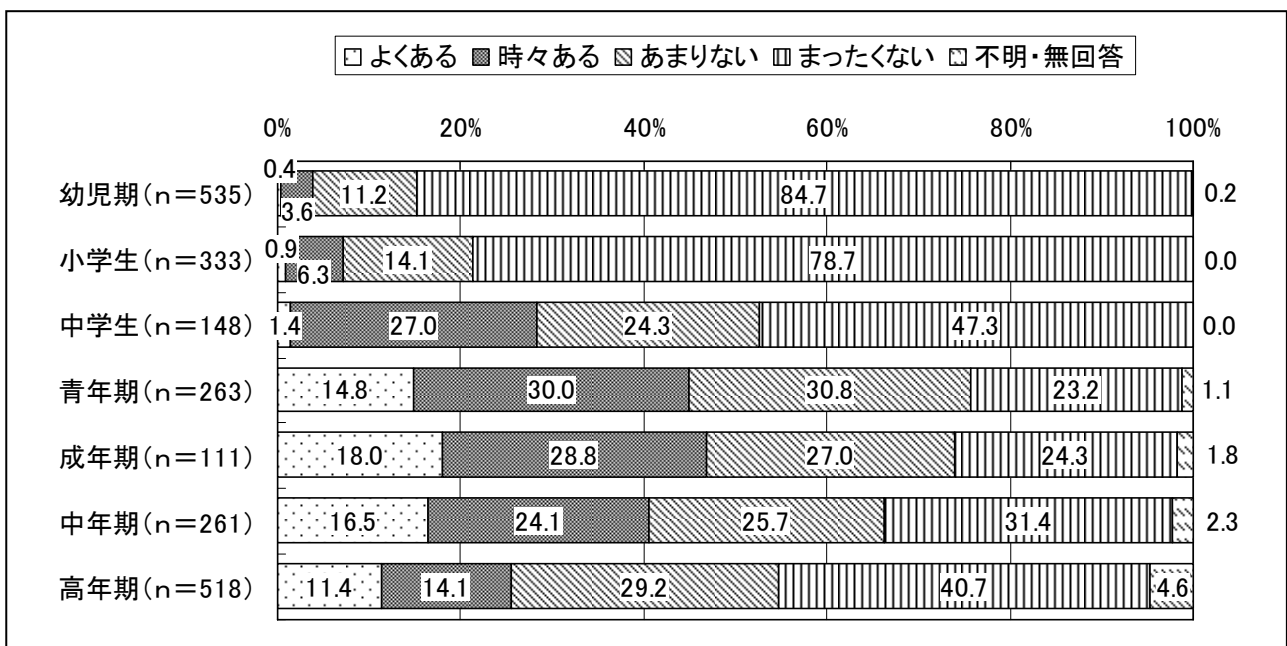
図表9-1 ながら食の状況



(10) 孤食の状況とその理由

家族と一緒に暮らしているのに1人で食事をするを「孤食」と言いますが、2人以上で住んでいる人に夕食について孤食の状況を尋ねたところ、「よくある」は青年期以上で1割程度ですが、「時々ある」は中学生から中年期で2割以上と多い状況です。また、「まったくない」は幼児期から青年期にかけて割合が下がりますが、青年期から高年期にかけては割合が増えるという傾向にあります（図表10-1）。

図表10-1 孤食の状況



孤食について、「よくある」、「時々ある」と答えた人にその理由を尋ねたところ、幼児期は「家族は他の用をしているから」、小中学生は「子どもに塾や習い事があるから」がそれぞれ最も多くなっています（図表 10-2、図表 10-3）。

また、青年期、成年期では「夕食の時間に自分が家にいないから」が最も多いのに対し、中年期、高年期では「夕食の時間に家族が家にいないから」が最も多くなっています（図表 10-4）。

図表 10-2 孤食の理由 (%)

対象	n (人)	時間帯が家族と合わない	家族は他の用をしているから	その他	不明・無回答
幼児期	21	33.3	47.6	28.6	0.0

図表 10-3 孤食の理由 (%)

対象	n (人)	時間帯が家族と合わない	子どもに塾や習い事があるから	自分の部屋で食べるから	家族が他の用をしているから	その他	不明・無回答
小学生	24	29.2	54.2	0.0	16.7	12.5	0.0
中学生	42	23.8	76.2	0.0	7.1	9.5	2.4

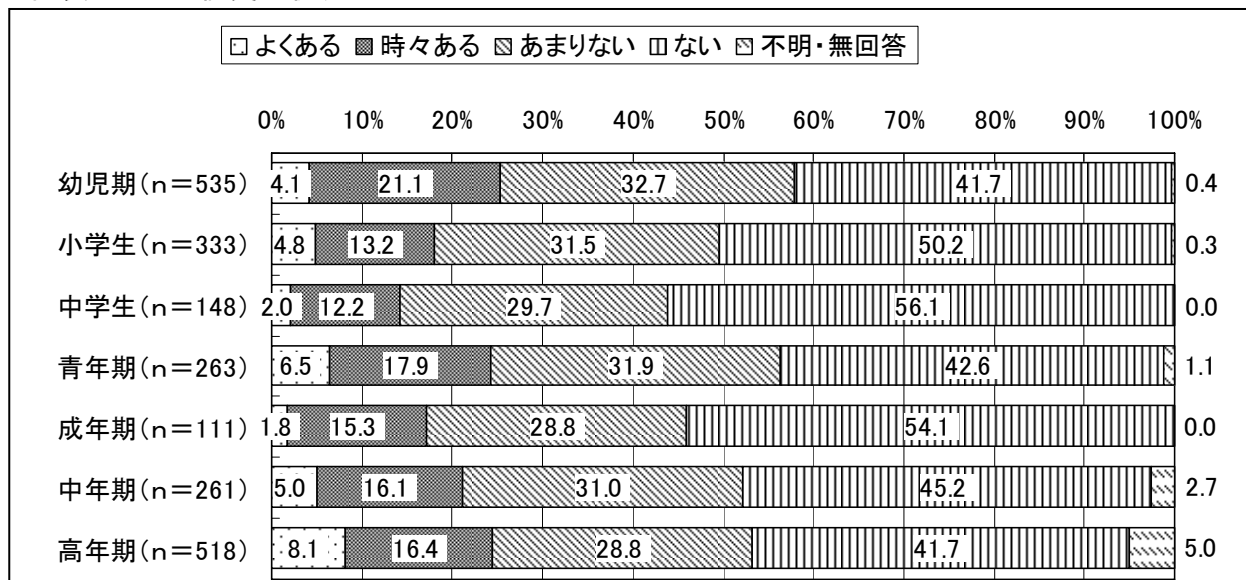
図表 10-4 孤食の理由 (%)

対象	n (人)	夕食の時間に自分が家にいないから	夕食の時間に家族が家にいないから	自分の好きな時に食べるから	自分の部屋で食べるから	特に理由はない	不明・無回答
青年期	118	65.3	19.5	7.6	0.8	5.1	1.7
成年期	52	57.7	28.8	9.6	1.9	1.9	0.0
中年期	106	37.7	44.3	11.3	0.9	4.7	0.9
高年期	132	9.1	53.8	13.6	5.3	12.1	6.1

(11) 個食の状況

家庭で一緒に食事をするときにそれぞれ別のメニューを食べる「個食」について尋ねたところ、「よくある」は高年期の 8.1% が最も多く、成年期の 1.8% が最も低くなっています。また、「時々ある」は幼児期の 21.1% が最も多く、中学生の 12.2% が最も低い結果となっています（図表 11-1）。

図表 11-1 個食の状況

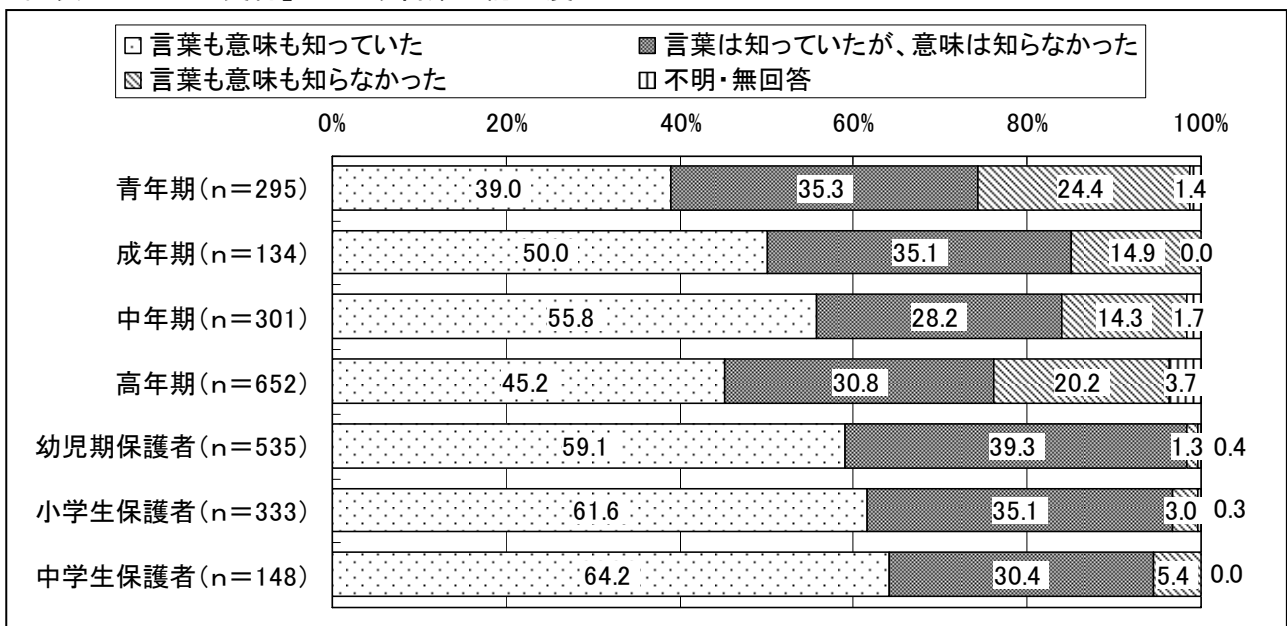


(12) 「食育」という言葉の認知度

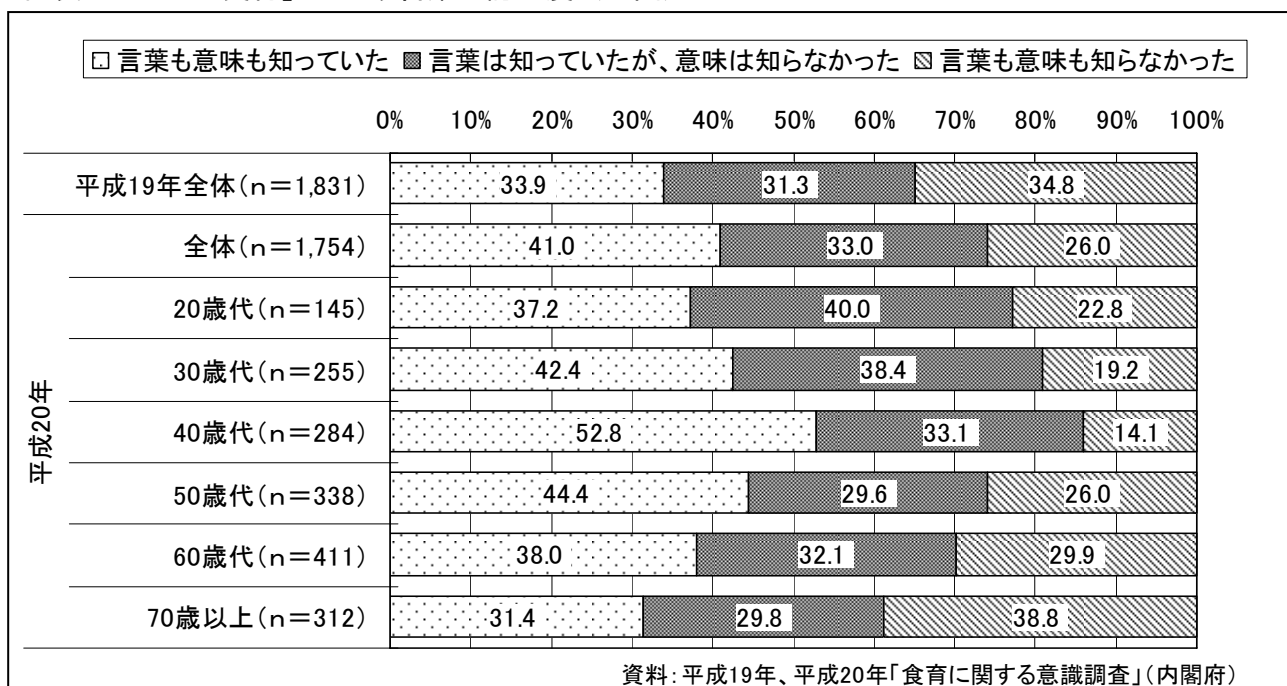
「食育」とは、「様々な経験を通じて『食』に関する知識と『食』を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること」ですが、「食育」という言葉の認知度を尋ねたところ、青年期から中年期にかけて「言葉も意味も知っていた」の回答が増え、高年期で下がる傾向にあります。また、幼児期、小学生、中学生の保護者については他のライフステージに比べ「言葉も意味も知っていた」の割合が高くなっています（図表 12-1）。

内閣府の「食育に関する意識調査」の結果を見ると、「言葉も意味も知っていた」は平成 19 年で 33.9%、平成 20 年で 41.0%と言葉の認知度は高まっている状況にあります。また、年代別の結果を見ると、20 歳代から 40 歳代にかけて割合が増え、それ以降は割合が下がる傾向にあり、この傾向は吹田市も同様ですが、割合は全国調査よりも吹田市のほうがやや高い状況にあります（図表 12-2）。

図表 12-1 「食育」という言葉の認知度



図表 12-2 「食育」という言葉の認知度（全国）



資料：平成19年、平成20年「食育に関する意識調査」（内閣府）

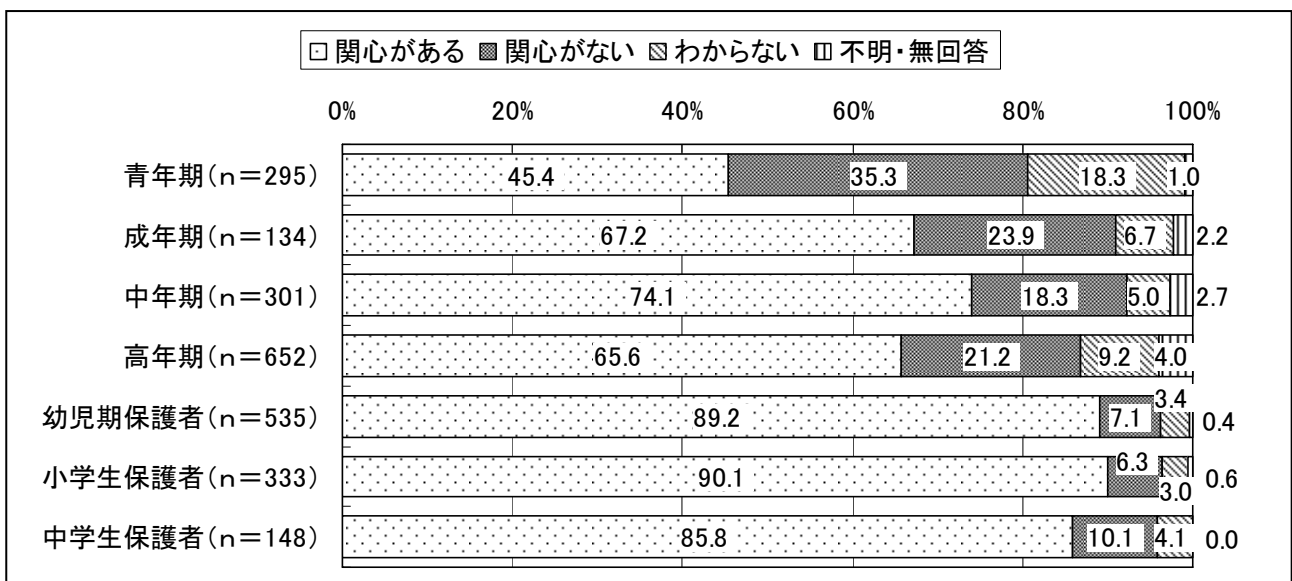
(13) 食育に対する関心とその理由

食育に対する関心を尋ねたところ、「関心がある（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の計）」は青年期から中年期にかけて関心が高くなる傾向にあります。また、乳幼児期、小学生、中学生の保護者については「関心がある」が約9割と関心が高くなっています（図表 13-1）。

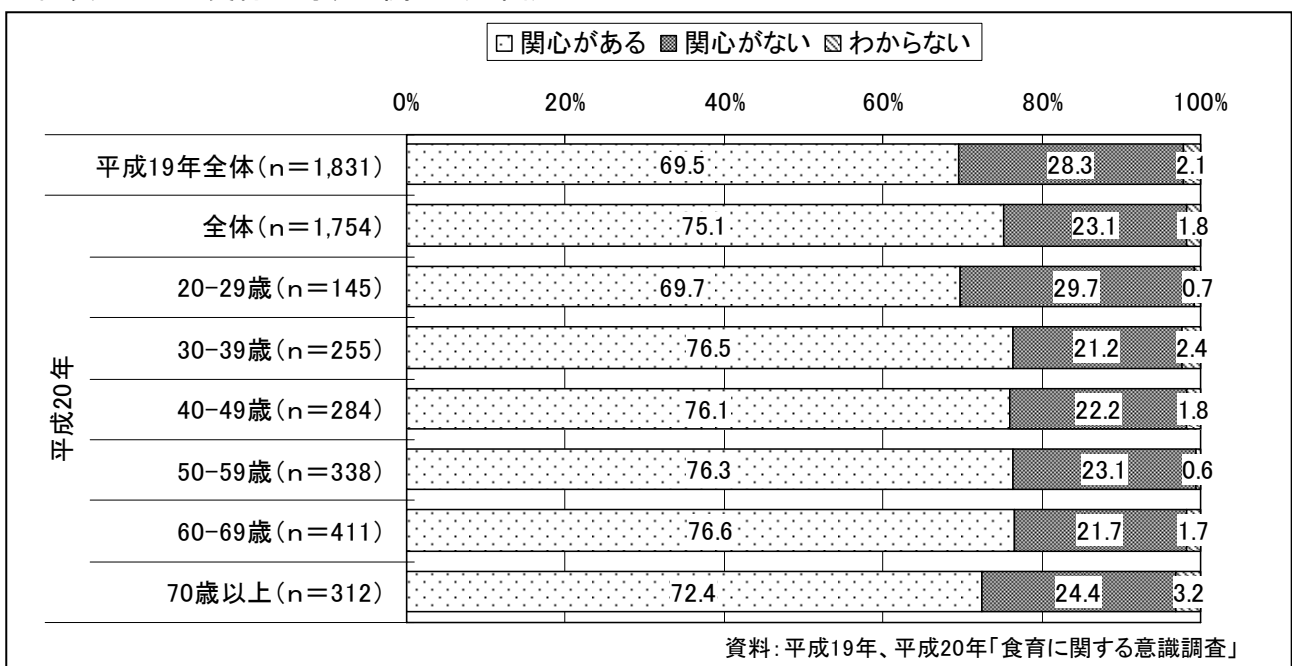
内閣府の「食育に関する意識調査」を見ると、「関心がある（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の計）」は平成19年で69.5%、平成20年で75.1%と国全体としては食育の関心は高まっている状況で、平成20年の結果を年代別にみても約7割という状況にあります（図表 13-2）。

食育に関心があると答えた人にその理由を尋ねたところ、青年期から高年期まで「健康のため」が最も多くなっていますが、幼児期、小学生、中学生の保護者では「子どもの心身の発育に重要だから」が最も多い回答となっています（図表 13-3）。

図表 13-1 食育に対する関心



図表 13-2 食育に対する関心（全国）



図表 13-3 食育に関心がある理由

対 象	n (人)	健康のため	食品の安全確保が必要だから	子どもの心身の発育に重要だから	食を通してのコミュニケーションが必要だから	食に関する伝統を守るため	食糧自給率が低すぎるのが問題だから	大量の食べ残しなど食品廃棄物が問題だから	自然の恩恵や食に対する感謝の念が薄れているから	その他	特にない	わからない	不明・無回答
青年期	134	77.6	27.6	39.6	31.3	6.7	17.2	27.6	31.3	7.5	0.0	0.0	0.7
成年期	90	70.0	34.4	68.9	24.4	6.7	10.0	23.3	30.0	2.2	0.0	0.0	0.0
中年期	223	82.1	48.9	50.7	22.0	11.7	13.0	24.7	32.7	2.2	0.0	0.0	0.0
高年期	428	86.7	55.1	32.7	23.6	9.3	19.4	24.5	37.1	1.4	0.2	0.2	0.5
幼児期保護者	477	73.6	33.8	92.0	23.1	6.3	4.6	13.8	32.5	2.9	0.0	0.0	0.4
小学生保護者	300	74.7	37.3	92.7	20.7	7.3	3.7	15.3	33.0	0.7	0.0	0.0	0.7
中学生保護者	127	82.7	39.4	89.8	22.0	4.7	7.1	19.7	34.6	0.8	0.0	0.0	0.0

図表 13-4 食育に関心のある理由（全国）

(%)

対 象	n	子どもの心身の健全な発育のために必要だから	食生活の乱れが問題になっているから	肥満ややせすぎが問題になっているから	生活習慣病の増加が問題になっているから	BSEの発生など、食品の安全確保が重要だから	食にまつわる地域の文化や伝統を守ることが重要だから	食料を海外からの輸入に依存しすぎることが問題だから	消費者と生産者の間の交流や信頼が足りないと思うから	有機農業など自然環境と調和した食料生産が重要だから	大量の食べ残しなど食品廃棄物が問題だから	自然の恩恵や食に対する感謝の念が薄れているから	その他	特にない	わからない
全体	1,831	59.2	55.5	18.0	50.9	12.2	9.2	21.8	2.7	16.5	15.2	19.2	0.5	0.2	0.4
20 歳代	174	60.2	68.0	21.4	49.5	10.7	12.6	11.7	2.9	8.7	18.4	15.5	0.0	0.0	0.0
30 歳代	308	76.4	58.3	14.4	44.0	12.5	12.0	12.0	4.2	11.1	15.7	23.1	0.0	0.5	0.0
40 歳代	297	76.6	62.0	13.7	43.9	11.7	12.2	19.0	3.4	12.7	10.2	23.9	0.0	0.0	0.0
50 歳代	372	58.1	53.1	20.9	55.0	14.3	9.7	20.9	2.7	19.8	15.1	19.0	0.0	0.0	0.4
60 歳代	376	49.8	51.9	18.0	54.4	12.7	5.7	31.4	1.8	20.1	15.9	15.5	1.4	0.0	1.1
70 歳以上	304	38.0	48.1	20.7	55.8	9.6	5.8	27.9	1.9	20.7	16.8	17.3	1.0	0.5	0.5

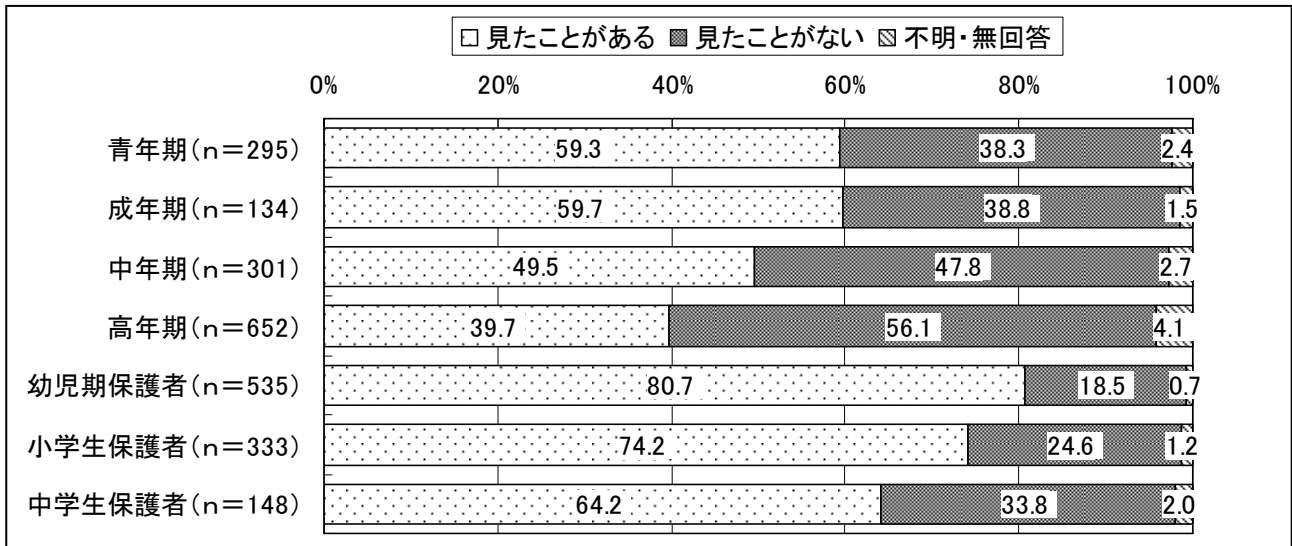
資料：平成 19 年「食育に関する意識調査」（内閣府）

(14) 食事バランスガイド

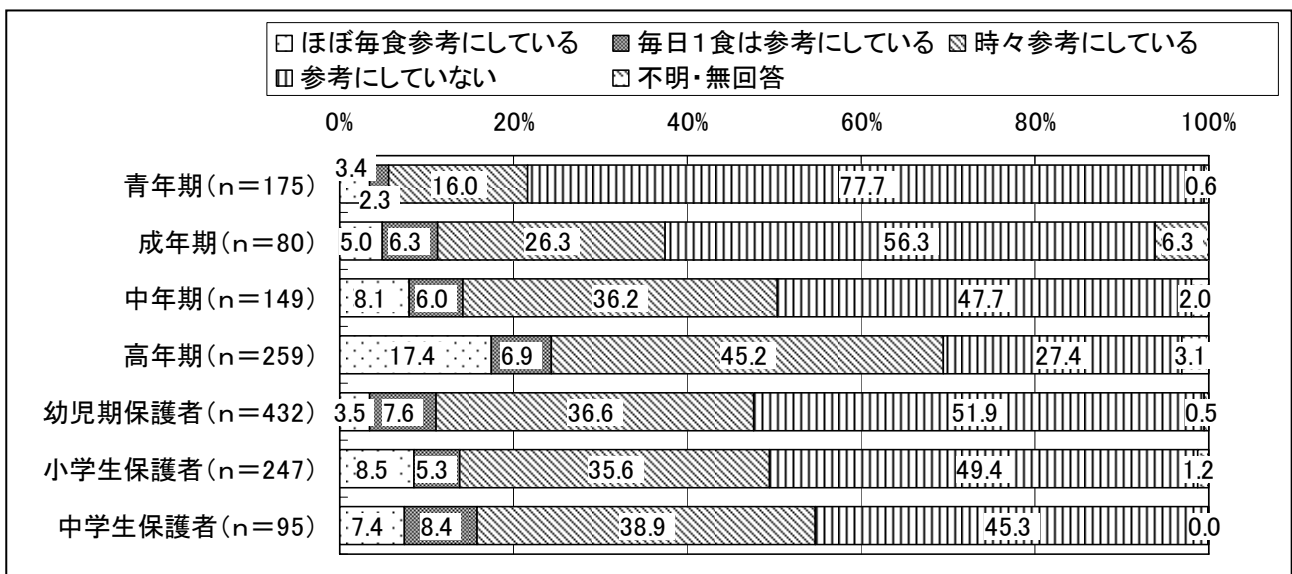
食事の望ましい組み合わせとおおよその量を示したコマ型のイラスト「食事バランスガイド」について、見たことがあるかを尋ねたところ、「見たことがある」は青年期で59.3%、成年期で59.7%と約6割に対して、中年期で49.5%、高年期で39.7%とライフステージが上がるにつれて回答が下がっています。また、幼児期、小学生、中学生の保護者については、他のライフステージに比べ「見たことがある」の回答が高く、特に幼児期の保護者については80.7%と多くなっています(図表14-1)。

また「見たことがある」と答えた人に食事バランスガイドを参考にしているかを尋ねたところ、高年期を除き、全てのライフステージにおいて「参考にしていない」が最も多くなっており、特に青年期は77.7%と多くなっています。高年期は「時々参考にしている」が45.2%で最も多くなっていますが、「ほぼ毎食参考にしている」が17.4%と他のステージに比べ多くなっています(図表14-2)。

図表 14-1 食事バランスガイドを見たことがあるか



図表 14-2 食事バランスガイドを参考にしているか

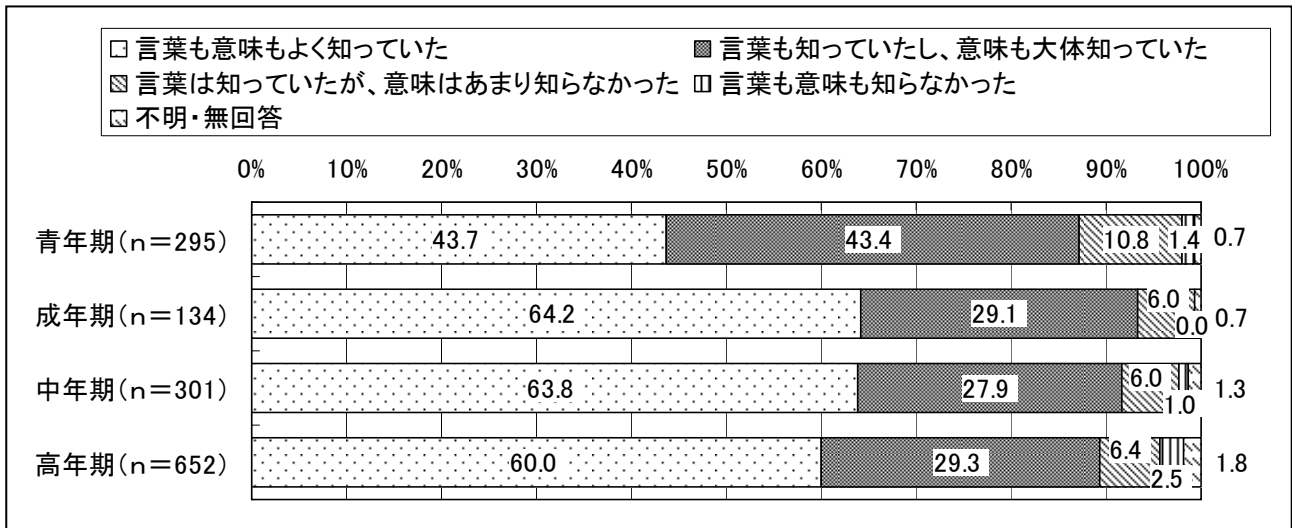


(15) メタボリックシンドロームの認知度

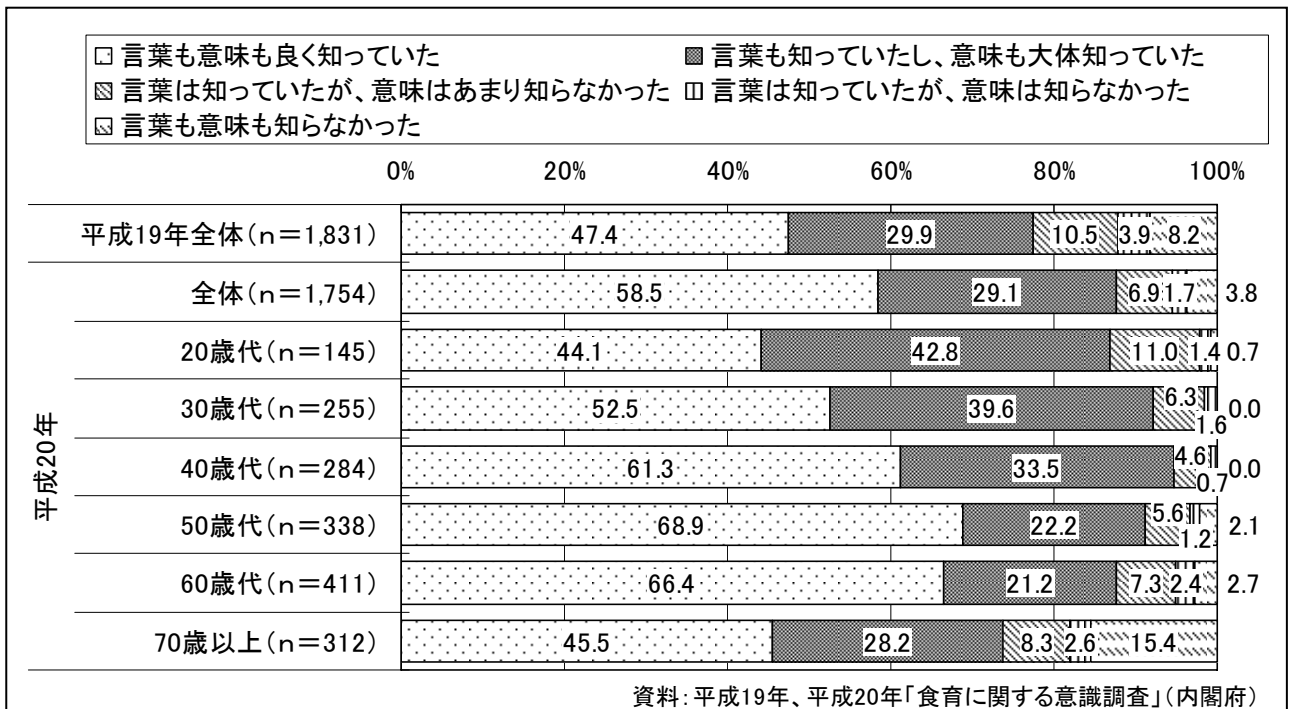
「メタボリックシンドローム」とは、内臓のまわりに脂肪がつく肥満に加えて、高血糖、高血圧、脂質異常といった生活習慣病の危険因子をあわせて持っている状態をいいますが、「メタボリックシンドローム」の認知度を尋ねたところ、「言葉も意味もよく知っていた」は成年期の64.2%が最も多く、青年期の43.7%が最も低くなっており、成年期以上の年代は6割台となっています（図表15-1）。

内閣府の「食育に関する意識調査」の結果を見ると、「言葉も意味も良く知っていた」は20歳代から50歳代まで年代が上がるにつれて割合が増え、それ以降は下がる傾向にあり、40歳から69歳までの年代は6割となっており、吹田市は全国と同様の傾向にあります（図表15-2）。

図表 15-1 メタボリックシンドロームの認知度



図表 15-2 メタボリックシンドロームの認知度（全国）



資料：平成19年、平成20年「食育に関する意識調査」（内閣府）

(16) 食べ残しについて

「食べ残しを減らす努力をしているか」を尋ねたところ、どのライフステージも「いつもしている」が最も多くなっていますが、高年期が 65.5%で最も多く、青年期が 40.7%で最も低くなっています（図表 16-1）。

平成 19 年の内閣府「食育に関する意識調査」の結果を見ると、「必ずしている」がどの年代も最も多くなっていますが、内閣府調査では 20～29 歳、30～39 歳の若年層においても 6 割と回答が多く、吹田市の若年層のほうが努力している人が少ないことがうかがえます（図表 16-2）。

図表 16-1 食べ残しを減らす努力をしているか (%)

対 象	n (人)	いつもして いる	時々して いる	あまりして いない	まったくし ていない	不明・ 無回答
青年期	295	40.7	34.2	20.0	4.4	0.7
成年期	134	58.2	32.1	8.2	0.7	0.7
中年期	301	57.5	33.2	7.3	1.0	1.0
高年期	652	65.5	25.6	5.7	1.2	2.0
幼児期保護者	535	57.2	37.2	5.0	0.2	0.4
小学生保護者	333	55.3	39.3	5.4	0.0	0.0
中学生保護者	148	56.8	40.5	2.0	0.0	0.7

図表 16-2 食べ残しを減らす努力をしているか (%)

対 象	n (人)	必ずして いる	しばしばし ている	時々して いる	あまりして いない	全くしてい ない
総数	1,831	67.8	18.0	6.9	5.4	1.8
20 歳代	174	64.9	24.1	4.6	4.6	1.7
30 歳代	308	62.7	25.3	5.5	5.8	0.6
40 歳代	297	59.6	23.6	10.8	4.4	1.7
50 歳代	372	69.6	15.6	7.3	5.6	1.9
60 歳代	376	76.6	10.9	4.5	6.6	1.3
70 歳以上	304	69.7	13.5	8.6	4.6	3.6

資料：平成 19 年「食育に関する意識調査」（内閣府）

(17) 農業体験について

「農業体験の有無」を尋ねたところ、幼児期は「幼稚園、保育所であったことがある」、小学生、中学生は「学校であったことがある」が最も多く、学校や幼稚園等での体験が最も多くなっています（図表 17-1、図表 17-2）。青年期、成年期は「何度かしたことがある」、中年期、高年期は「したことがない」がそれぞれ最も多くなっています（図表 17-3）。

また、「農業体験に興味があるか」を尋ねたところ、青年期は「興味がない」が最も多く、成年期から高年期では「少し興味がある」が最も多くなっています（図表 17-4）。

子どもの保護者に「お子さんに農業体験をさせたいか」を尋ねたところ、幼児期、小学生は「思う」、中学生では「どちらかと思う」が最も多くなっており、「思う」はライフステージが上がるにつれて割合が下がっています（図表 17-5）。

図表 17-1 農業体験の有無 (％)

対 象	n (人)	幼稚園、保 育所でしたこ とがある	幼稚園、保育 所以外でした ことがある	したことがな い	不明・ 無回答
幼児期	535	55.7	44.3	22.2	0.4

図表 17-2 農業体験の有無 (％)

対 象	n (人)	日常的にし ている	学校でしたこ とがある	学校以外でし たことがある	したことがな い	不明・ 無回答
小学生	333	9.3	59.2	37.2	16.2	0.3
中学生	148	2.0	68.2	30.4	15.5	0.0

図表 17-3 農業体験の有無 (％)

対 象	n (人)	日常的にし ている	何度かした ことがある	したことがな い	不明・ 無回答
青年期	295	2.7	57.3	39.7	0.3
成年期	134	11.9	50.0	37.3	0.7
中年期	301	8.3	42.9	47.8	1.0
高年期	652	10.1	39.0	48.8	2.1

図表 17-4 農業体験に対する興味 (％)

対 象	n (人)	興味があ る	少し興味 がある	興味があ ない	不明・ 無回答
青年期	295	20.3	34.9	44.4	0.3
成年期	134	28.4	40.3	29.9	1.5
中年期	301	19.3	44.5	34.2	2.0
高年期	652	21.2	37.1	36.8	4.9

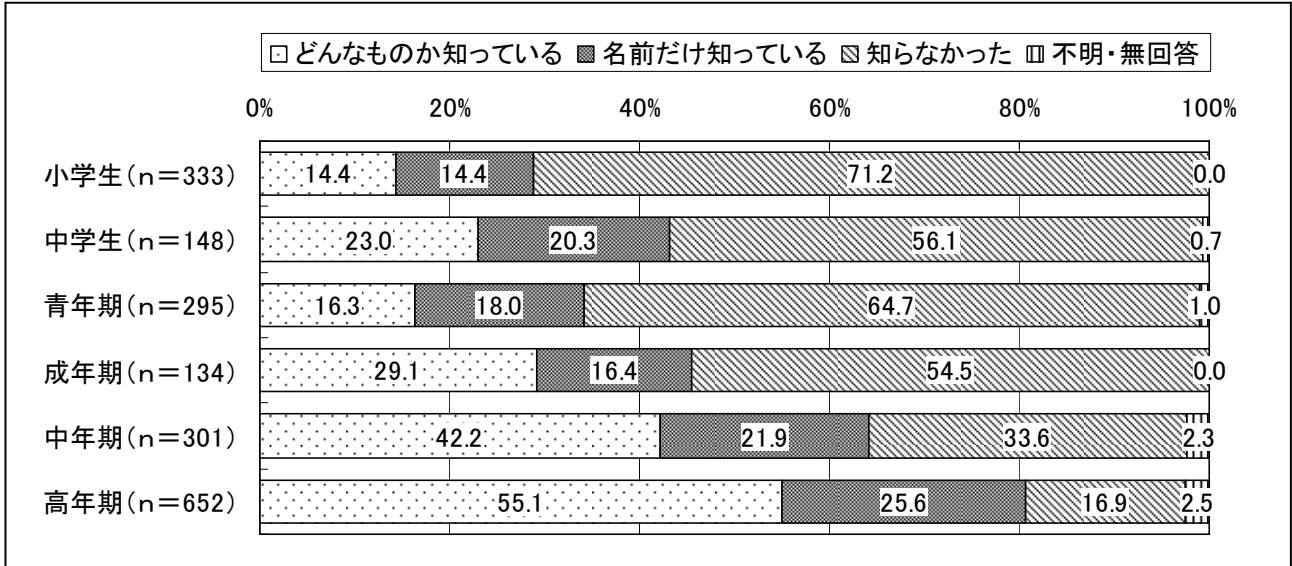
図表 17-5 子どもに農業体験をさせたいと思うか (％)

対 象	n (人)	思う	どちらか という思う	どちらか という思 わない	思わない	不明・ 無回答
幼児期保護者	535	68.0	28.8	1.5	1.3	0.4
小学生保護者	333	54.1	42.0	2.4	1.5	0.0
中学生保護者	148	34.5	48.0	12.2	4.1	1.4

(18) 吹田くわいの認知度

「吹田くわいを知っているか」を尋ねたところ、「どんなものか知っている」はライフステージが上がるにつれて回答が多くなる傾向にあります。青年期は 16.3%と中学生の 23.0%よりも低くなっています(図表 18-1)。

図表 18-1 吹田くわいの認知度



(19) 食や栄養に関する情報源

「食や栄養に関する情報源」を尋ねたところ、全てのライフステージにおいて「テレビ」が最も多くなっています。2番目に多いのは青年期のみ「家族・親戚」で、その他のライフステージでは「新聞・雑誌・書籍」となっています。その他、「友人・知人」や「飲食店やスーパー等食品関連企業のチラシ等」も多く、「インターネット」も高年期を除いては多くなっています。「市の広報や講演会・教室等」についてはどのライフステージにおいても10%未満となっています(図表 19-1)。

図表 19-1 食や栄養に関する情報源

対象	n (人)	テレビ (%)	新聞・雑誌・書籍 (%)	インターネット (%)	家族・親戚 (%)	友人・知人 (%)	市の広報や講演会・教室等 (%)	飲食店やスーパー等食品関連企業のチラシ等 (%)	学校・園のお知らせ等 (%)	その他 (%)	特に何も参考にしない (%)	不明・無回答 (%)
青年期	295	72.9	35.3	30.2	43.1	17.3	1.0	14.6	9.2	2.4	10.2	0.7
成年期	134	79.1	59.0	38.1	34.3	19.4	5.2	17.9	6.0	0.7	0.0	0.0
中年期	301	81.4	70.8	21.6	19.6	26.9	3.0	23.9	3.7	1.0	3.3	2.0
高年期	652	75.9	69.9	6.3	19.5	33.0	4.1	27.1	0.2	1.5	5.4	2.3
幼児期保護者	535	73.5	67.7	26.2	31.4	27.3	2.2	21.3	21.7	1.5	1.9	0.4
小学生保護者	333	75.4	65.8	22.8	27.0	27.3	3.3	21.6	19.8	1.5	2.1	0.3
中学生保護者	148	83.8	77.7	23.6	15.5	22.3	3.4	29.7	13.5	1.4	1.4	0.0